

宮崎日日新聞に12月4日に掲載

11月25日に開催した研修会が記事として掲載される



脳科学の観点から不登校支援のアプローチ方法について講話した、県立看護大の川村道子教授

安心できる環境重要

不登校支援看護師ら学ぶ

宮崎市で講座

不登校やひきこもりの子どもらを支援する訪問看護師の役割を伝える講座が宮崎市の県福祉総合センター

表)が本年度から取り組む早期支援事業の一環。講座は11月25日になり、県立看護大の川村道子教授(精神看護学)が講師を務めた。

川村教授は、不登校について、当事者が自らの心身を守る「生存戦略」と捉える脳科学の観点も紹介。子ど

もたちが「ありのままの自分を受け入れてもらえる」と安心できる環境を整えて支援する重要性を訴えた。

同市・訪問介護ステーション

ヨン心奏代表の竹井順一さんは「専門的な知見から自分たちの活動が適切な支えであることを再確認できた」と話していた。(日高智明)

宮崎日日新聞に6月14日に掲載

6月7日に開催した研修会が記事として掲載される



県内で精神障害者に対する支援を行っているNPO法人「宮崎もやいの会」（小林順一代表、宮崎市）は、不登校やひきこもりの児童生徒らを対象にした早期支援事業を立ち上げた。児童生徒らを対象にした早期支援事業を立ち上げた。介護福祉事業者らと連携。訪問看護師が支援対象者宅に直接訪問するなど、伴走型での自立支援を目指す。期間は来年3月まで。

不登校やひきこもりの長期化は、一次障害として精神疾患につながる可能性があるものの、現状は公的な相談窓口での対応など支援範囲が限られている。同法人はこうした状況を打開しようと、早期支援事業を構想。民間の福祉活動を支援する独立行政法人福祉医療機構（WAM）の本年度助成事業に応募し、690万円の助成金を受けた。県内からは2団体が選ばれた。助成金は、福祉事業者の初期訪問に対する報酬や、事業周知を図るために講習会実施、支援対象者への実態調査などにかかる費用に充てる。支援の中で当事者（日高智明）

不登校早期に自立支援 NPO法人が伴走型事業

宮崎市

家族らと信頼関係を築き、期間終了後も子ども医療助成制度を活用した継続支援につなげていきたい考え。7日に宮崎市の県電ホルで初の研修会を実施し、県内の福祉事業者ら61人が参加。和歌山県印南町の「訪問介護ステーションH.U.I（ハル）」代表・峯上良平さん（36）を講師に、同施設が実践するひきこもり支援の内容や、実際に自立につながった事例を学んだ。小林代表は「いかに当事者たちに寄り添った形で支援できるかが一番の課題。連携する事業者らと解決策を模索し、最終的には不登校やひきこもり支援のモデル事業として行政側に提案したい」と意気込む。

24日と7月13日にも、訪問型支援を実践する代表者らを講師に招き、研修会を開く予定。宮崎もやいの会（090-9212-3475）